短いループのできる確率



でいぐ

2018年12月8日

数物セミナー愛媛談話会

https://fujidig.github.io/201812-short-period/ 201812-short-period.pdf

この発表で話すこと

- $\underline{m} = \{0, 1, 2, ..., m-1\}$ とおく
- \underline{m} から \underline{m} への写像fが無作為に与えられたときにfによる反復列の周期に関する期待値や確率を議論する
- そのようなfは m^m 通りあるのでそのそれぞれが 等確率であるとする
- mが十分大きいときに興味があるので $m \to \infty$ の極限を考える

このテーマのモチベーション

- このテーマは疑似乱数の発生と関係してくる
- 一般的にコンピュータは(外部からノイズを入力 するということをしない限り)乱数を発生させる ことはできない
- そこで確定的な計算によって乱数っぽいもの (疑似乱数)を作っている
- 疑似乱数は固定された写像fを使った反復列に よって定められる

このテーマのモチベーション

- ・疑似乱数の生成に使われる fは「でたらめな写像」を持ってくれば良いだろうという誤解がコンピュータの最初期にはあった
- しかし、「でたらめな写像」は短い周期を持ち やすいので、疑似乱数にふさわしくない
- その事実を定量的に述べる一つの議論がこの講演である

Knuthが考えたでたらめな写像

は、根据であると思しら/の/ ヒル**/

- K1. |反義用数の選択 $Y \leftarrow [X/10^2]$ とする。これで、Y に X の最上保布をセットできる。(ステップE7 から X13 までをちょうと Y + : 回来行する。ランダム変換をランダムな匹数だけ行うようにしてある。
- K2. [ランダムなステップの選択] $Z \in [X/10^3] \mod 10$ とする。これで、 $Z \subseteq (1 X)$ の上から2 新日をセットしている。ステップ K(3+Z) に進む (プログラム 内のランダムなステップに進むますにしている)。

- K3. $\geq 5 \times 10^6$ 全録組まる| $N < 5000000000 至も、<math>N \in X + 50000000000$ とする。
- K4. 二乗中級き | X を | X²/10° | mod 10° 。 すなわち X の二乗の中央部分に置き換える
- K5. 未算 X を (1001001001X) mod 10⁻⁰ に置き換える。
- **K6. 複数特数**] $X < 100000000 なら、<math>X \leftarrow X + 9914055977$ 。そうでなければ $X \leftarrow 10^{10} X$ と する。
- K7、上半分とト半分の交換] X の位も暫と上位も行を交換する。すなわち、 $F \mapsto 10^5 (X \mod 10^5) + [X/10^5]$ とする。この領は、 $(10^{10}+1)X$ の中央 10 指である。
- K8. 乗算 ステップ K5 と同じ操作。
- Kg. 宿を避らす] X を十進表現したときの 0 以外の行金 1 ずつ減らす。
- K10. 92099 による変更] $X < 10^5$ なら $X \leftarrow X^2$ 1 90.90、そうでなければ $X \leftarrow X = 96909$ と する。
- K11. 正規化 (この販売で、X は () ではない) X < 10" なら X ← 10X とし、このステップを支 設する。
- **K12** [改良工業中決さ] $X \in [X(X-1)/10^8]$ mod \mathbb{R}^{10} , すなわち X(X-1) の中央 10 桁は置き換える。
- K13. [再実行で] Y > 0 なら Y を1 減らし、ステップ K2 に戻る Y = 0 なら、X を目的の「乳酸」 値としてアルゴリズムを終了。 ■

[2]の3.1節より引用. このアルゴリズムはKnuthが 1959年に考えた.

このアルゴリズムで得られる 写像を使って列を作ると初期 値によっては周期が1や3になりえる. つまり疑似乱数としては使い物にならない

(Knuthでさえ、でたらめな写像 が疑似乱数に使えると誤解し た)

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられるときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期が1になる確率を求めよ.

写像 $f: \underline{m} \rightarrow \underline{m} \land x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられ るときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期が1になる確率を 求めよ x…=x,となるi, k ≥ 0がある.

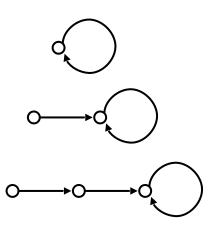
そのようなiの最小値を μ , kの最小値を λ とする.

λが列の周期である

$$P(\mu = 0, \lambda = 1) = \frac{1}{m}$$

$$P(\mu = 1, \lambda = 1) = \left(1 - \frac{1}{m}\right) \frac{1}{m}$$

$$P(\mu = 2, \lambda = 1) = \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) \frac{1}{m}$$



写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられるときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期が1になる確率を求めよ.

$$P(\mu = \mu_0, \ \lambda = 1) = \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) \dots \left(1 - \frac{\mu_0}{m}\right) \frac{1}{m}$$

$$\downarrow \supset T$$

$$P(\lambda = 1) = \frac{1}{m} \sum_{i \ge 0} \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) \dots \left(1 - \frac{i}{m}\right)$$

をQ(m)とおく

写像 $f:\underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられるときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期が1になる確率を求めよ

$$Q(m) = \sum_{i \ge 0} \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) \dots \left(1 - \frac{i}{m}\right)$$

はRamanujanのQ functionと呼ばれる.

Fact
$$Q(m) = \sqrt{\frac{\pi m}{2} - \frac{1}{3} + O(m^{-\frac{1}{2}})}$$

Factより,

$$P(\lambda = 1) \sim \sqrt{\frac{\pi}{2m}} \sim \frac{1.25}{\sqrt{m}}$$

mが十分大きいときには周期が1になる確率はほ0

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられるときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期の期待値を求めよ.

写像 $f:\underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられるときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期の期待値を求める。

$$P(\mu = \mu_0, \ \lambda = \lambda_0) = \frac{1}{m} \prod_{1 \le k < \mu_0 + \lambda_0} \left(1 - \frac{k}{m} \right).$$

よって

$$E[\lambda] = \sum_{\substack{1 \le \lambda_0 \\ 0 \le \mu_0}} \frac{\lambda_0}{m} \prod_{1 \le k < \mu_0 + \lambda_0} \left(1 - \frac{k}{m}\right).$$

$$= \frac{1}{m} \left\{ 1 + (1+2)\left(1 - \frac{1}{m}\right) + (1+2+3)\left(1 - \frac{1}{m}\right)\left(1 - \frac{2}{m}\right) + \dots \right\}$$

$$= \frac{1}{m} \sum_{n \ge 0} \frac{(n+1)(n+2)}{2} \prod_{1 \le k < n} \left(1 - \frac{k}{m}\right)$$

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられると きに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期の期待値を求め

Lemma

ょ

$$f(a_0, a_1, \dots) = \sum_{n \ge 0} a_n \prod_{k=1}^n (1 - \frac{k}{m})$$

$$f(a_0, a_1, \dots) = a_0 + f(a_1, a_2, \dots) - f(a_1, 2a_2, \dots) / m$$

Lemmaに
$$a_n = \frac{n+1}{2}$$
を代入すると

$$E[\lambda] = \frac{1}{m} \sum_{n \ge 0} \frac{(n+1)(n+2)}{2} \prod_{1 \le k \le n} \left(1 - \frac{k}{m} \right) = \frac{1 + Q(m)}{2}.$$

写像 $f:\underline{m} \to \underline{m}$ と $x_0 \in \underline{m}$ が無作為に与えられるときに列 $x_n = f^n(x_0)$ の周期の期待値を求めよって

$$E[\lambda] = \frac{1+Q(m)}{2} \sim \sqrt{\frac{\pi m}{8}} + \frac{1}{3}.$$

つまり周期 λ の期待値は \sqrt{m} に比例する程度

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,fが不動点を持つ確率を求めよ.

写像 $f: \underline{m} \rightarrow \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,fが不動点を持つ確率を求めよ。

不動点とはf(x) = xとなる $x \in \underline{m}$ のこと.

すべてのxで $f(x) \neq x$ となるfの個数は $(m-1)^m$

一方,すべてのfの個数は m^m .

よって

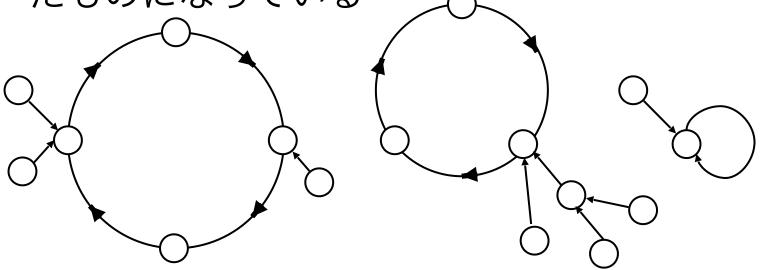
$$P($$
不動点を持つ $) = 1 - \frac{(m-1)^m}{m^m}$

$$=1-\left(1-\frac{1}{m}\right)^m$$

 $m \to \infty$ の極限は $1 - e^{-1} = 0.632$ …である.

…の前に観察

- 0, 1, 2, ..., m 1を頂点としてf(i) = jならiからjへの有向辺を伸ばしたグラフを考える
- このグラフはいくつかのサイクルに木を生やしたものになっている



問題3を一般化しよう.

fのl-loopとは \underline{m} の相異なる元 $x_1, x_2, ..., x_l$ であって $f(x_1) = x_2, ..., f(x_l) = x_1$ をみたすもののこと。

4-loop: x_1 x_4 x_2

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

かんたんのため, n=2で解く.

Fact (包除原理)

Iを有限全順序集合,各 $i \in I$ に対し A_i を事象とする.このとき

$$P\left(\bigcup_{i \in I} A_i\right) = \sum_{k=1}^{|I|} (-1)^{k-1} \sum_{i_1 < \dots < i_k} P(A_{i_1} \cap A_{i_2} \cap \dots \cap A_{i_k})$$

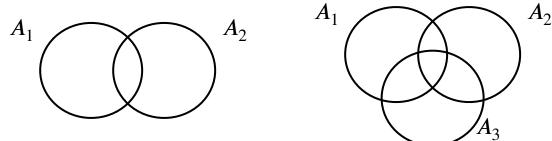
写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

包除原理は |I|=2,3のときは次の式を表す:

•
$$P(A_1 \cup A_2) = P(A_1) + P(A_2) - P(A_1 \cap A_2)$$

•
$$P(A_1 \cup A_2 \cup A_3) = P(A_1) + P(A_2) + P(A_3) - P(A_1 \cap A_2)$$

- $P(A_1 \cap A_3) - P(A_2 \cap A_3) + P(A_1 \cap A_2 \cap A_3)$



写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

•
$$[\underline{m}]^2 = \{ \{x, y\} \subset \underline{m} \mid x \neq y \}$$
 とおく

- $x \in \underline{m}$ に対し $A_x = \{f: \underline{m} \to \underline{m} \mid x は f$ の不動点}
- $\{x, y\} \in [\underline{m}]^2$ に対し

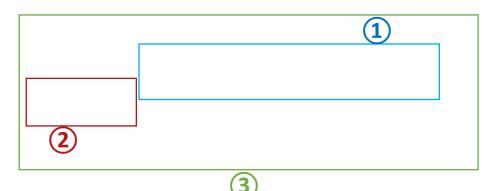
$$A_{\{x, y\}} = \{f: \underline{m} \to \underline{m} \mid \{x, y\}$$
は f の2 - loop} と定める.

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

すると

$$P(\exists 1 - \text{loop} \lor \exists 2 - \text{loop}) = P\left(\bigcup_{t \in \underline{m} \cup [\underline{m}]^{2}} A_{t}\right) = \sum_{k=1}^{|I|} (-1)^{k-1} \sum_{t_{1} < \dots < t_{k}} P(A_{t_{1}} \cap A_{t_{2}} \cap \dots A_{t_{k}})$$

$$= \sum_{k=1} (-1)^{k-1} \sum_{\substack{r+s=k \ x_{1} < \dots < x_{r} \in \underline{m} \\ r+2s \le m}} \sum_{p_{1} < \dots < p_{s} \in [m]^{2}} P(A_{x_{1}} \cap \dots \cap A_{x_{r}} \cap A_{p_{1}} \cap \dots \cap A_{p_{s}})$$



27

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

① について計算. 固定された

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

②で走らせているものの個数を数える.

$$\# \left\{ \left((x_1, ..., x_r), (p_1, ..., p_s) \right) \in \underline{m}^r \times \left([\underline{m}]^2 \right)^s \middle| \begin{array}{l} x_1 < ... < x_r, \ p_1 < ... < p_s, \\ \{x_1\}, \ ..., \ \{x_r\}, \ p_1, ..., \ p_s \ \text{l\sharp pairwise disjoint} \end{array} \right\} \\
= C(m, r) \frac{P(m - r, \ 2s)}{(2!)^s s!}$$

ここにC(-,-)は組み合わせの数、P(-,-)は順列の数を表す記号.

よって、 1と2とから3が計算される.

$$\sum_{\substack{x_1 < \ldots < x_r \in \underline{m} \\ p_1 < \ldots < p_s \in \underline{[m]}^2}} P\left(A_{x_1} \cap \ldots \cap A_{x_r} \cap A_{p_1} \cap \ldots \cap A_{p_s}\right) = C(m, r) \frac{P(m - r, 2s)}{2^s s!} \frac{1}{m^{r+2s}}$$

$$= \frac{1}{2^s r! s!} \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) \ldots \left(1 - \frac{r + 2s - 1}{m}\right)$$

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

$$P(\exists 1 - \text{loop} \lor \exists 2 - \text{loop})$$

$$= \sum_{k=1}^{r} (-1)^{k-1} \sum_{\substack{r+s=k\\r+2s \le m}} (3)$$

$$= \sum_{k=1}^{r} (-1)^{k-1} \sum_{\substack{r+s=k\\r+2s \le m}} \frac{1}{2^{s}r!s!} \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) ... \left(1 - \frac{r+2s-1}{m}\right)$$

$$= \sum_{\substack{r+s \ge 1\\r+2s \le m}} \frac{(-1)^{r+s-1}}{2^{s}r!s!} \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) ... \left(1 - \frac{r+2s-1}{m}\right)$$

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

$$P(\exists 1 - \text{loop} \lor \exists 2 - \text{loop})$$

$$= \sum_{\substack{r+s \ge 1 \\ r+2s \le m}} \frac{(-1)^{r+s-1}}{2^s r! s!} \left(1 - \frac{1}{m}\right) \left(1 - \frac{2}{m}\right) \dots \left(1 - \frac{r+2s-1}{m}\right)$$

 $m \to \infty$ とすると

$$\sum_{r+s \ge 1} \frac{(-1)^{r+s-1}}{2^s r! s!} = 1 - \sum_{r \ge 0} \frac{(-1)^r}{r!} \sum_{s \ge 0} \frac{(-1)^s}{2^s s!}$$
$$= 1 - e^{-1} e^{-\frac{1}{2}}$$
$$= 1 - e^{-\frac{3}{2}}$$

(ルベーグの収束定理とフビニの定理を使った)

写像 $f: \underline{m} \to \underline{m}$ が無作為に与えられるとき,n以下のloopができる確率を求めよ.

一般のnでは

となる.

$$P_1 = 0.632 \cdots$$

 $P_2 = 0.776 \cdots$
 $P_3 = 0.840 \cdots$

$$P_{10} = 0.946 \cdots$$

$$P_{100} = 0.994 \cdots$$

写像 $f: \underline{m} \rightarrow \underline{m}$ が無作為に与えられるとき、fの一番短いloopの長さの期待値は?

(未解決?)

具体例

• $m = 2^{24} = 16777216$ としてfは次のものを採用

$$f(x) = \left| \frac{(ax+b) \bmod 2^{64}}{2^{40}} \right|$$

where a = 10208877246009069551, b = 17024059796969606487

このときループの長さは

4051, 2523, 259, 197, 165, 140, 139, 2 となった (これで全て)

なお、
$$\sqrt{\frac{\pi m}{8}} = 2566.\dots$$

参考文献

- [1] Donald E. Knuth "The Art of Computer Programming, Volume 1: Fundamental Algorithms" Addison-Wesley Professional, 1997.
- [2] Donald E. Knuth "The Art of Computer Programming, Volume 2: Seminumerical Algorithms" Addison-Wesley Professional, 2014.

本発表は主に[2]の3.1節の演習問題に依っている.

まとめ

- 。(問題1) 写像と初期値を無作為に選んだとき,周期が1になる確率は約 $\sqrt{rac{\pi}{2m}}$
- ・ (問題2) 周期の期待値は約 $\sqrt{\frac{\pi m}{8}}$
- (問題3) 写像を無作為に選んだとき不動点ができる確率は $約1 e^{-1} = 0.632 \cdots$
- 。(問題4) n以下のloopができる確率は約 $1-e^{-H_n}$ $(H_n=1+\frac{1}{2}+\ldots+\frac{1}{n})$
- (問題5) 一番短いloopの長さの期待値は?
- "The random numbers should not be generated with a method channel of random "(Valith [2] 3.1節)
- ご清聴ありがとうございました

